

◎2013年2月定例会・一般質問

◎小川洋知事答弁

＜農商工連携による農業振興＞

お答えを申し上げます。6次産業化の取り組みの現状と評価についてでございます。

県では、農林水産業の6次産業化を進めるために、今年度から新たに、農業団体と食品メーカーや販売者などとの連携によります商品開発や販路開拓の取り組みを支援をしてきております。これによりまして、地域の農産物を使った野菜スープ、大豆プリン、いちじくドライフルーツなど17件の商品開発が行われているところであります。

また、開発された商品のPRや販路開拓を進めるために、バイヤーと商品開発者のマッチングを進める展示商談会をこの1月23日に開催をいたしました。先ほどの話だと議員も足を運んでいただいたということで、ありがとうございます。この商談会には59社が出展し、百貨店や量販店等64名のバイヤーの方々との間で活発な商談が行われたところでございます。これまでに10社で新たな取引が開始され、26社で商談継続中でございます。

なお、その時の出席者のアンケート調査の結果によりますと、バイヤーさんからは「パッケージデザインの特徴に欠ける」「供給できる量が少ない」、また出展者の方からは、これは反省の弁に近いんですが、「商品紹介のパンフレットがあればよかった」「商品価格の設定が不適切だった」、そういった意見が出されております。県としましては、今後さらに商談の成果が上がってきますよう、今回明らかになった課題を踏まえ、生産者に対するアドバイザーの派遣や商取引に関わる研修会の充実を図ってまいります。

次に、農商工連携アドバイザーの取り組みの状況についてお尋ねがございました。

今年度から農林漁業者と商工業者が連携して行います新商品開発、販路開拓を支援するため、中小企業振興センターに農商工連携アドバイザーを2人、配置いたしております。2名のアドバイザーの方々は、農林漁業者や食料品製造業者の広範なネットワーク、あるいは食品分野における加工技術とマーケティングに関する専門知識を有しておられまして、農林漁業者や商工業者からの相談に応じて、新たな商品づくりや販路開拓の支援を行っていただいているところでございます。

具体的な活動といたしましては、古賀市の支援によりまして市内15事業者が取り組んでおられます農産物を使った商品づくりに対しまして、加工方法等の指導、バイヤーの紹介を行い、その結果、ミカンが入ったチキンカレーや古賀流すき焼き、鶏す

きなどが商品化され、大手百貨店で販売されることとなりました。また、豊前市の支援により、地元 JA と商工業者が協力して取り組んでおります地元ゆずを使った商品づくりにつきまして、アドバイザーが加工方法等の指導を行った結果、ゆずペーストとして商品化をされまして、道の駅・豊前おこしかけで販売されるようになってございます。このような取り組みのほか、県内各地で進められています地元特産品を使った新商品づくり、32 の事業について現在支援を行っているところでございます。

県といたしましては、今後とも農商工連携アドバイザーを活用し、また市町村とも連携して、地域における農商工連携の取り組みを支援してまいります。

次に 6 次産業化の展望についてお尋ねがございました。

6 次産業化の取り組みを進めるにあたりましては、市場動向を的確に捉え、ニーズに合った商品の開発を行い、そしてその販路を確保していくことが大事であります。このため、県では、先ほど申し上げました通り、今年度から商品開発から販路開拓まで総合的に支援をいたしております。

また、普及指導センターにおきまして窓口を設置いたしまして、6 次産業化に取り組む生産者に対しまして、商品開発に必要な専門家、また食品加工所の衛生指導を行う保健所などの関係機関の紹介を行っております。

県といたしましては、このような取り組みを通じて、6 次産業化を進めることによりまして、生産者の所得向上を図るだけではなく、地域経済の活性化、雇用機会の創出につながっていくものと考えております。

<外国人の県内周遊を目指す観光戦略>

次に観光戦略についてお尋ねがございました。具体的な取り組み、実績、課題でございます。

本県では、九州観光推進機構と連携をいたしまして、九州が一体となった国内外からの観光客の誘致を進めておりますとともに、県独自の取り組みといたしまして、九州を訪れた観光客を一人でも多く福岡に滞在、宿泊してもらう「ワンモア福岡」、「福岡でもう 1 カ所、もう 1 泊、もう 1 食」、そういった考え方で観光振興を図ってまいりました。

海外からの誘客につきましては、九州観光推進機構と連携いたしまして、海外旅行博への出店、観光説明会、商談会、メディア、旅行会社の関係者の招へいなどを実施してまいりました。県独自には、クルーズ船運航会社のキーマン、主要な人物を招へいいたしまして、柳川や小倉城、門司港レトロなどへのクルーズ船寄港地観光コースの設定について働きかけをしてまいりました。

国内からの誘客につきましては、当県出身の博多華丸・大吉を起用いたしまして、

九州新幹線によって利便性が高まっております関西、中国地方というものをターゲットにいたしまして、食、温泉、伝統文化や祭り、ショッピングなど、この福岡県が持っております魅力を紹介してまいりました。私自身も2月2日でございますが、大阪のなんばグランド花月の舞台上、華丸・大吉さんと一緒に観光PRを行わせていただきました。また、産業観光や、修学旅行の誘致などにも努めているところでございます。

この結果、本県への外国人入国者は、九州観光推進機構が設立されました平成17年の約50万人から、平成24年には約83万人に達しております。九州に来られる方の、海外から来られる方の全体の約8割、これが福岡県から入国されております。県内延べ宿泊者数も、平成17年の約865万人から、平成23年には約889万人に増加をいたしております。

今後は、福岡県の九州におけるゲートウェイとしてのその利便性を高め、本県を訪れる観光客を増加させるとともに、現在、福岡地域に集中しております宿泊者を県内全域に周遊させることが大事であると思っております。

県内各地域の観光資源の発掘についてでございます。

近年、国内旅行のニーズは、従来の「行く」「行った」「見た」「食べた」だけでなく「学んだ」「体験した」と、非常に多様化をしております。観光客誘致には様々な地域の素材を掘り起こして、またそれを魅力ある新たな観光資源として磨き上げていくことが求められております。

現在、地元市町村や民間団体を中心に、県内各地域で、観光を核とした地域活性化の取り組みが活発に行われております。県としてもこれらの取り組みを支援しているところでございます。具体的には、京築神楽などの地域の伝統芸能、久留米の藍胎漆器づくり、藍染め体験、田川の工芸体験などの伝統工芸、朝倉・京築の農家民泊などの自然体験、夏ふぐ、田川ホルモン鍋、小倉焼うどん、遠賀冷麺、それから嘉飯のお菓子など「食」をテーマにしたものがございます。

本県といたしましては、これらの新たな地域資源を活用した観光振興を図っていくために、来年度、観光ふくおかの魅力創造事業に取り組むことといたしております。具体的には、このような地域の素材をつないで、ストーリー性のある体験型の観光のモデルコースを設定いたしました上で、モニターツアーを実施したいと考えております。また、各地域の観光関係者と観光による地域おこしの経験豊富な専門家の方々に、ツアー参加者に加わっていただきましてワークショップを開催して、新たな観光資源を発掘し、育ててまいりたいと考えております。

次に外国人観光客の県内周遊と宿泊を促進する施策についてでございます。

アジア各地から直行便を多く有し、交通の結節点というの本県の特徴、特性を生かしまして、アジアからの多くの観光客を呼び込んで、県内での宿泊・周遊を促進してい

きたいと考えております。そのためには、日本向け旅行商品の企画に強い影響力を有しております東京にあります旅行手配会社、ランドオペレーターに、わが福岡県の観光素材や宿泊施設の魅力というものを理解してもらい、当県への旅行の企画、商品化を実現していくことが必要であると考えております。

このため、来年度、新たにこうした旅行社を招へいいたしまして、ウナギ料理、フグ料理などの福岡の食、太宰府、柳川などの日本情緒あふれる歴史・文化、エコタウンや自動車工場に代表されます産業観光の体験、また、ホテルや温泉宿といった充実した施設での宿泊などによりまして、福岡県のよさを実感してもらいたい。このように考えております。

次にスマートフォンによる観光情報通信についてお尋ねがございました。

近年、若者を中心にスマートフォン利用者が急速に拡大しております。20代では既に約半分以上が利用しています。このスマートフォンは、旅行時におきましては、観光情報を検索、観光地までの経路の表示、コメントの投稿など、便利で楽しい旅の旅行のツールとして、活用されているところでございます。こうした状況を踏まえまして、本県の観光情報の発信力し、季節に応じた旬な観光情報、隠れた名店の紹介など福岡の耳寄りな観光情報を発信するためには、スマートフォンの活用は極めて有効であると考えております。それによって、観光客の県内周遊を促していきたい。このように考えております。

来年度については、まずは日本語での情報発信から始めさせていただきまして、外国語対応については、この日本語版サイトの利用状況などを踏まえ、研究していきたいと考えております。

◎田辺の再登壇・要望

知事からご答弁をいただきました。それぞれのテーマについて、将来の展望も視野に入れ、要望だけ述べさせていただきたいと思っております。

まず6次産業化の展望についてですけれども、知事のご答弁の中にもありましたように、商談会に臨んで、バイヤーさんと話ができる端緒を得ても、実際に販売するとなると、希望通りの量を確保する生産・供給体制の問題も生じています。これに加えて、現場から聞こえてきますのは、こうした地域の特産加工品がどんどん開発されていく中、さらに大手が6次産業化商品に類似した商品まで開発するといったケースも出てくると、どういう形で競争力を確保していくのかという課題も出てきます。また、販路開拓の悩みというのは、加工品だけでなく、農産物そのものの販売する、そういった形を目指す若手の意欲ある農家の皆さんからも聞こえてきました。

こうした地域の多様な課題に対処できる人材の確保、育成、6次産業を所得向上のための「新たな産業」として定着させるためには、先ほど申しましたように、現場の農家からあった「地域に根ざして、一緒に取り組んでいける人材の確保・育成」というものが必要になってくるものと思います。県には、こうした課題を強く意識をしていたきながら、次年度以降も、現場の農家の皆さんに資する農商工連携・6次産業化に、発展的に取り組んでいただきたいということを強く要望させていただきます。

また、観光についてですけれども、ご答弁をいただきましたように、つなぐ素材の「発掘」というのに、ぜひ市町村と連携をして、積極的に取り組んでいていただきたいと思います。

ちなみに、触れていただいた博多華丸・大吉さんの大吉さんは福岡出身なんですけれども、古賀の出身でもありまして、市のふるさと大使も務めています。最後になりますけれども、小川知事におかれましては、ぜひとも本県の観光振興といった観点から、わが地元の薬王寺温泉にも足を運んで、ぜひその魅力を体感していただきたい、ということを切に要望させていただきます、私の一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。